松之大廊下跡

本丸御殿は、かつて江戸城本丸の大部分を占めていました。ここは、襖戸に松並木が描かれていたことから「大松の

廊下」、松之大廊下として知られている廊下の跡です。この廊下はおおよその長さが 55 メートル、幅 4 メートルで、将

軍との対面所である白書院へとつながっていました。日本の歌舞伎、人形浄瑠璃、小説や映画で長年にわたって人

気の高い主題である、忠臣蔵の元になった有名な赤穂事件の起きた場所です。1701 年、赤穂藩主だった浅野

（1667～1701）はこの廊下で高家の吉良（1641～1702）を斬りつけ怪我を負わせました。この罪により、浅

野は自決を命じられます。そして 1 年後、主人を亡くし浪人となった彼の元家臣 47 人は、復讐として吉良を討ちまし

た。浪人たちを殺人の罪に問うか、その忠誠を称賛するかで幕府の意見は分かれました。妥協案として、主人を亡くし

た侍たちには斬首刑の代わりに名誉の死である切腹が命じられました。

写真の説明

「松之大廊下襖戸絵図」からの詳細（東京国立博物館）

歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の木版画詳細（国立劇場）